

88

ポンペ・ファン・メールデルフォールトと 牛痘種痘(第1報)

松木 明知

弘前大学大学院医学研究科麻酔科学講座

ポンペについては各方面から研究されているが、彼の牛痘種痘法の普及に関する研究は少なく、とくにポンペによる牛痘種痘法の小冊子の本文についての詳細な考察はこれまでなされてこなかった。演者は天理大学附属天理図書館所蔵の原書のカラーコピーを取得し、書誌的事項を含めた内容を検討し、またこれまで知られている日本語訳文と比較した。

1 本書の概要：本冊子について医史学的見地からは中野 操、荒瀬 進の研究があるが、本文自体に関する言及はない。来日したポンペは牛痘種痘法が日本に将来されて10年ほど経過しているにも拘わらず、その最初の導入地である長崎では依然として多くの人々が天然痘の猖獗に苦しんでいることに驚いた。このためポンペは行政当局に対して強制的に接種をしなければならないと説いたのが本書である。

2 書誌的事項：この研究には天理大学附属天理図書館所蔵本(請求記号は496-14)を用いた。現在本書は貴重書となっている。書誌的には8°(197×120mm.): unsigned π^4 ($\pi^2+2\pi^8$), 12 leaves, pp. [2] [5] 6-19, [3], 28 lines (p. 6) 136 (146)×86. Roman 97.である。活字の並びに乱れがなく、この点からも長崎西役所内で作られたいわゆる長崎版(西役所版)とは製版上明確に区別されるという。

3 扉：次のように記されている。日本語訳(演者による)を示す。

天然痘とその連累に関する短報一予防的牛痘種痘法に関連して一

王立オランダ海軍衛生士官

J.L.C. ポンペ・ファン・メールデルフォールト著

日本 出島印刷 1858

再版 江戸町 安政5年

この扉の記載はこれまで誤解されて来たが、神崎の研究によれば、“Japan, ter Drukkerij te Desima, 1858.”は印刷技術も身に付けていたインデマウルの指導の許に出島の印刷所で製版され、そして“Nagedrukt te Jedo. Anno Ansei 5.”は江戸町の宿老会所内でその印刷と製本が行われたことを示しているという。“Nagedrukt”は文字通りの再版ではない。

4 題名：これまでの邦訳では本書の題名は正確に伝えられてこなかった。原題名は“KORTE BESCHOUWING DER POKZIEKTE EN HARE WIJZIGINGEN IN VERBAND MET DE VOORBEHOENDE KOEPOK INENTING”である。これを例えば八木称平は「散花小言」(1858)、荒瀬 進は初め「種痘並びに、その類症に関する小著」(1950)、後に「痘病小誌」(1957)と訳し、中野 操は単に「痘瘡並びに牛痘種痘法に関する本」としている。八木の題名は“KORTE BESCHOUWING”と“POKZIEKTE”, “VOORBEHOENDE”から作り、荒瀬の初めの題名は誤訳であり、後の題名は原題名前半の“KORTE BESCHOUWING DER POKZIEKTE”をそのまま訳したものであり、中野の書名は“POKZIEKTE”, “KOEPOK INENTING”を抽出して訳したことが分かる。しかし本書の内容を詳細に検討すると、Pompeが最も主張したかったことは“POKZIEKTE EN HARE WIJZIGINGEN”(天然痘とその連累)であることが理解される。これまでに報告されている邦訳では、このことが見落とされていると考えられる。